

実践哲学研究

第19号

力と理性

—— カントの倫理思想と自然哲学 ——白水 士郎 (1)

信仰と体系知の相克

—— ヘーゲル『宗教哲学講義』1821年の形成史的意義 ——
.....小林亜津子 (23)

「真理は主体性である」再考

—— ケルケゴール『後書』における逆説と倫理 ——
.....江口 聡 (49)

Changes in the Concept of "Fitness"

in Evolutionary BiologyISED A Tetsuji (67)

彙 報 (105)

京都大学文学部倫理学研究室内

実践哲学研究会

正誤表

【実践哲学研究】第19号には下記の誤りがありました。お詫びの上、訂正させていただきます。

	誤	正
p.3 L.12	哲学的思一般	哲学的思惟一般
p.7 L.15	zurückstoßende	zurückstoßende
p.14 L.19	概念からして	概念故に
p.15 L.2	何なおカントが	何故なおカントが
p. 17 L.25	説明ために	説明するために
p. 46 L. 4	ということ	ということ
p. 57 L.18	信念	認識
P. 57 脚注L.2	野心できかつ	野心的で
p. 58 L.12	入れねばならいい	入れねばならない
p. 60 L. 5	想定した	想定をした
p. 62 L. 21	思われる	思う
p.91	R° (6箇所)	R°
p.104 L.4	[執筆者紹介]	(伊勢田哲治 いせだてつじ 博士後期課程 フルブライト奨学生 (メリーランド大学在籍))
裏表紙	Kraft unt Vernunft ..philosophie(1921) Ethics and Paradox	Kraft und Vernunft ...philosophie(1821) Paradox and Ethics

实践哲学研究

第 19 号

彙報

1996 年度倫理学講義題目

講義

教授 加藤尚武 倫理学講義 I

特殊講義

教授 加藤尚武 日本哲学史

教授 加藤尚武 ヘーゲル哲学研究

助教授 水谷雅彦 コミュニケーション理論と倫理学

総合人間学部
教授 四日谷敬子 Heidegger とギリシャの思惟

講師 鷲田清一 所有と固有

講師 塚田敬義 医事法の諸問題

講師 川本隆史 ロールズとその影響

演習

教授 加藤尚武 応用倫理学

教授 加藤尚武 Schelling: *System des transzendentalen Idealismus*

教授 加藤尚武 倫理学の諸問題

助教授 水谷雅彦

総合人間学部
教授 有福孝岳 I. Kant: *Kritik der Urteilskraft*

総合人間学部
教授 四日谷敬子 M. Heidegger: *Wegmarken* より
"Vom Wesen und Begriff der Physik"

人間・環境学
研究科教授(哲学) 竹市明弘 Heidegger: *Sein und Zeit*

講師(哲学) 藪木栄夫 Kant: *Prolegomena*

講師(哲学) 宗像 恵 Leibniz: *Nouveaux essais*

趣旨

われわれの社会が直面している現在の状況は、倫理学の重要性を日増しに痛感させるものである。しかしながら、ひとくちに倫理学といってもその対象は多岐にわたる。諸分野の共同なしには研究の進展はない。それゆえ、われわれ京都大学倫理学研究室大学院生は、みずからの研究を公にすることによって、広く諸姉兄の批判と判断を仰ぎ、各自の問題意識を深めると同時に相互の交流を図るべく、ここに『実践哲学研究』を発行する。

後記

- 1、 本年もここに第 19 号をお届けすることができました。これもひとえに皆様の貴重なご意見と暖かいご援助の賜物と感謝致しております。今後ともよろしくご指導のほどお願い申し上げます。
- 2、 例年の通り、本号掲載論文の合評会を行う予定です。皆様の忌憚のないご批評をいただきたく、ご参加を心よりお待ち申し上げます。日時と場所につきましては、あらためてご連絡差し上げます。
- 3、 当会では賛助会員制度を設け、会誌の読者の皆様にご支援をお願いしております。例年多数の方々のご協力をいただき、誠にありがとうございます。当会では会誌の充実にお一層の努力を致す所存でございますので、今後とも何卒ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。なお、賛助会費は年一口千円をお願い致しております。
- 4、 近年の財政上の困難から、今年度も研究室内でコンピューターにより版下を作成させて頂きました。お見苦しい点多いかと思いますが、どうかご容赦ください。

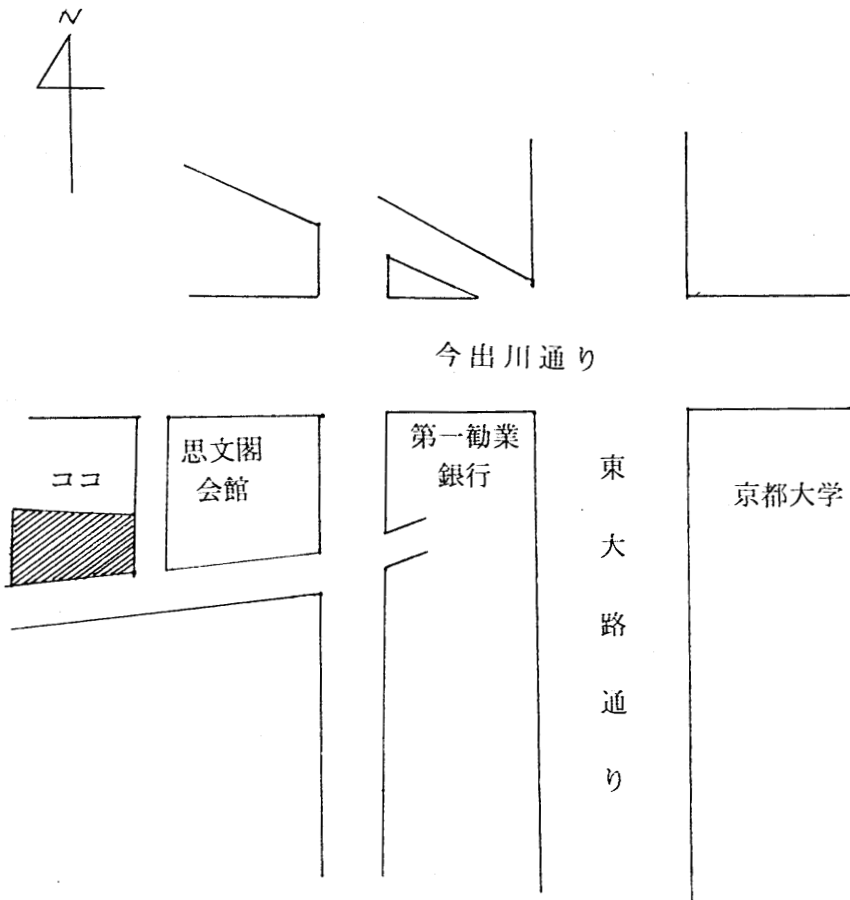
合評会のお知らせ

本号後記に告知しました掲載論文の合評会について、下記の通り行うこととなりましたので、ご案内申し上げます。

日時：1996年12月14日（土） 午後1時～ （午後5時頃終了予定）

会場：内外学生センター 特別室（075-771-6025 百万遍 思文閣裏手）

年の瀬を迎え、ご多忙の折とは存じますが、多くの皆様方のご参加をお願い申し上げます。
なお会場場所等、詳細についてお知りになりたい方は、研究室(TEL 075-753-2755)もしくは
までご連絡下さい。



関西倫理学会関係者各位

実践哲学研究会賛助会員制度へのご協力をお願い

ここにお渡し致しましたものは、当「実践哲学研究会」の会誌『実践哲学研究』第19号です。皆様方のご意見、ご批判を仰ぐことで私どもの研究を深めてまいりたいとの趣旨から、例年このように関西倫理学会会員の皆様方にお渡しさせて頂いております。（また別紙にございますように、本年も本誌の合評会を予定しております。ご参加頂けましたら幸いに存じます。）

さて、当会は私ども大学院生の手により運営しております関係上、本誌出版の財政的負担は容易なことではありません。そこで、やむを得ず数年前から賛助会員制度を設けさせて頂くことで、皆様方からのご援助をお願い致しております。厚かましいお願いにもかかわらず、毎年多くの方々から温かいご援助を賜わっております。本年も無事ここに本誌を出版することができましたのは、そのご好意のおかげと、一同心より感謝いたしております。

つきましては、本会の趣旨をご理解頂き、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

本年度、賛助会員としてご援助頂ける方には、一口千円からの賛助会費（尚、口数は問いません）をお願い致します。

尚、すでに本年度分賛助会費を納入して頂いております場合に、この「お願い」および「振込用紙」が同封されておりましたら、ご容赦願います。

1996年11月

京都大学実践哲学研究会

発行 実践哲学研究会

〒606 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部倫理学研究室内
郵便振替 01020-1-27560

発行日

1996年11月1日

事務局

京都大学大学院文学研究科哲学（倫理学）
大学院学生共同研究室

代表

加藤 尚武

**STUDIEN
ZUR
PRAKTISCHEN PHILOSOPHIE
(JISSENTETSUGAKU-KENKYU)**

Nr. 19 November 1996

INHALT

Kraft und Vernunft :

Die gemeinsame Grundzüge in Kants Ethik
und NaturphilosophieSHIROUZU Shiro (1)

Der Streit des Glaubens und des systematischen Wissens :

Die Bedeutung auf dem Bildungsweg
der Hegels *Religionsphilosophie* (1921)
.....KOBAYASHI Atsuko (23)

"Truth is Subjectivity" Revisited :

Ethics and Paradox in Kierkegaard's *Postscript*
.....EGUCHI Satoshi (49)

Change in the Concept of "Fitness"

in Evolutionary BiologyISEDA Tetsuji (67)

Verschiedenes (105)

VERÖFFENTLICHT UND HERAUSGEGEBEN VON

DER GESELLSCHAFT FÜR STUDIEN ZUR PRAKTISCHEN PHILOSOPHIE
AN DER UNIVERSITÄT KYOTO

(KYOTO DAIGAKU JISSENTETSUGAKU-KENKYU-KAI)

KYOTO JAPAN